



第 1403 回例会報告

平成27年3月5日(木)晴れ

会長挨拶

会長 吉澤邦雄

諏訪湖今昔

本日はクラブ会報・雑誌広報委員会による例会ですが、講師として諏訪地方を中心にフリーアナウンサーとしてご活躍の土橋桂子さんにお越しいただきました。後ほど卓話をよろしくお願ひ致します。

さて本日は諏訪湖に関わる今昔についてお話ししたいと思います。今までも何回か取り上げてきたテーマですが、本日は冬の諏訪湖について少々話したいと思います。

ご存知のように今期は全面結氷せず、残念ながら「明けの海」となり“御神渡り”は出現しませんでした。この“御神渡り”の記録は500年以上に亘り存在するのだそうです。古くは平安時代の和歌にもうたわれ、最古の公式記録は約600年前の室町時代に諏訪神社より時の幕府へ報告されています。途中、若干の中断はあったものの現在まで約570年間に亘る記録が残されており、こうした気象記録は世界的に見ても大変珍しいものだそうです。また、これらの記録には「一の御神渡り」「二の御神渡り」「佐久の御神渡り」の発地点

等に加え、添え書きに当時の出来事や豊作か凶作等の記録が残されており、これがまた大変貴重な古文書になっている所以とのことです。因みにこれらの資料に基づく「年占い」では、「明けの海」の場合、農作物は不作とされているのだそうです。

前にもお話ししましたが、私が幼少の頃(昭和20年代後半～30年代前半)はほぼ毎年、赤砂から高浜にかけて氷上に幾つもスケートリンクができました。のどが渇いた時には氷のかげらを口に含んだことも。氷の厚さは2～30cmを越すこともあり、初期には冷蔵用に大きな専用鋸で氷を切り出す様子も見られました。当然、“御神渡り”の出現も多く、その大きさも高さ5～60cmは優にあったと思います。今より寒さも一段と厳しかったように思います。

当時の漁師は“湖水”に氷が張り船を出せなくなる(氷厚10cm未満で可なり危険)と、木で出来た大きな“そり”に網や竹竿、救助用の梯子等を載せて沖に出ました。氷の下に流し網(刺し網)を仕掛け鮒やワカサギを獲るためです。斧で氷にあけた穴から、端にタコ糸を結んだ竹竿(タコ糸の先には流し網がある)を遠方へ押し通し、これを繰り返して氷の下に網を張ったのです。当時、氷の張った“湖水”の水は驚くほど澄んでいて、遠浅の湖底は鮮明に見えました。翌日回収のため

■出席報告

会員数	38名
出席対象	37名
出席者数	24名
出席率	64.9%
前回修正	86.5%

■ニコニコBOX

5名	18,000円
累計	373,000円
目標額	60万円
達成率	62.2%

■今週のことば

土橋様、本日はご多忙の中ありがとうございます。会員みなで目を輝かせて期待しております。よろしくお願ひ致します。

吉澤邦雄・高山巖

先日誕生日を迎え高貴高齢者となりました。

林洋三

蒲地さん心配していましたが笑顔を見られ安心しました。

河西達雄



手繰り寄せる流し網には銀白色に輝く魚が次々にあがってくるのが氷の上からでも見る事ができたのです。今では考えられませんが、これが私の心に残る冬の諏訪湖です。少しでも回復させたいものです。

◇幹事報告◇

【受領文書】

諏訪 RC、富士見ロータリーよりウィークリーが届いています

1403 回例会

土橋桂子さん卓話

雑誌広報クラブ会報委員会

本日は当初予定していました諏訪RCのメンバーでSBC諏訪支局長の関口良一様の卓話は都合により土橋桂子さんの卓話をお聞きしました。

お話は大変楽しく聞き惚れていてメモを取ることを失念してしまいました。申し訳ございませんが、関口さまから寄せられたメッセージのみ記載させていただきます。



なお土橋さんのお話は機会を変えてぜひもう一度お聞きしたいという声が多く聞かれました。

諏訪潮ロータリークラブの皆様へ

今年も新年初例会に参加させていただき、諏訪大社に参拝させていただきました。ありがとうございました。また、皆様には、取材活動でのご協力、テレビ・ラジオへの広告出稿、視聴者として日頃大変にお世話様になっています。)

本日は、私に代わりまして、土橋桂子さんにお話をさせていただきます。何卒、宜しくお願いいたします。

今日本には民間放送局と呼ばれるラジオ局・テレビ局が205社あります。従業員総数は2万5956人です。SBCは152人です。私が入社した昭和54年は360人でした。

衛星放送局を除いた地上民放社は193社で、2013年度の売上高は2兆3092億円。対前年1.4%の増収でした。ラジオが1263億円、テレビが1兆9284億円です。SBCはテレビ51.5億円、ラジオ12.9億円です。新聞、雑誌、インターネットを含めた広告費は5兆9762億円です。

SBCは、1952年3月25日に全国8番目のラジオ局として放送がスタートしました。私の生まれる4年前の事です。テレビは、その3年後の1958年10月に全国で11番目の開局となりました。この頃、神武景気が始まり、1955年の大卒の初任給が1万円位でテレビ受像機は8万円位だったようです

4年前にテレビのアナログ放送が終わり、デジタル放送へと切り替わりました。58年間に渡ったアナログ放送の歴史が幕を閉じました。この地デジに対する設備投資は民放1兆円、NHK4500億と言われ、各キー局は220億と地方局でも50億と年間の広告収入に匹敵する金額をかけました。

SBCでも新社屋建設やデジタル機材などで100億以上の投資をしました。アナログとデジタル放送を5年間に渡り、同時に行うのに建物が必要だったことと長野市街地の活性化の為、新社屋が必要だった為です。

そして、テレビはさらに帯画質を求め、東京オリンピックの2020年には4K、8Kの放送が行われていきます。

SBCは地域の放送局として、地元に着目した替組、ニュースを制作していきます。テレビは6チャンネル、ラジオは1197キロヘルツでお楽しみいただければ幸いです。どうぞよろしく願います。 関口良一

Happy birthday



今月の誕生日 林洋三さん 北原厚子さん